

音響機器等を利用した 英語音声教育のための予備的調査（継続）

小松雅彦／松村文芳

近年、技術的な発達によって、さまざまな音声分析のための機器が従来に比べて廉価で利用できるようになってきている。本研究プロジェクトでは、それらの音響機器等を利用した英語音声教育教材を作成するための予備的調査を行っている。2年目となる本年度は、おもに、調音動作の計測機器について調べている。

発話の観測には種々の機器が用いられる。しかし、これらの手法については広く知られているとは言い難く、最近、手法を紹介するシンポジウムが開かれた^[1]。そこでは、X線マイクロビーム、磁気センサシステム、MRI（磁気共鳴画像）、PGG（光電気声門図）、EGG（電気声門図）、高速度カメラを用いた研究の実例が示されるとともに、その他の研究手法も含めて最近の動向が紹介



NDI Wave Speech Research System
(写真提供：アドバンストシステムズ株式会社)

された^[2]。

最近では、磁気センサシステムを用いて、リアルタイムに調音動作を話者にフィードバックするシステムの研究も進んでいる^[3, 4]。



実験の様子

